

ActiveVisor™

システム・データ保護ソリューション「ActiveImage Protector™」用集中管理コンソール

ActiveVisor™とは

ActiveVisor™は、ActiveImage Protector™が導入されている、Windows、Linuxマシンのバックアップ状況の監視やプッシュインストール、バックアップタスク設定の配信などを統一した方法で集中管理できる統合管理コンソールです。ActiveImage Protector™の状態確認や設定をどこにいても、一元的に管理できますので、管理者の作業負担を大幅に軽減します。

ActiveVisor™の特長

管理対象マシンの一括監視

- ・バックアップタスクの状況
- ・管理対象マシンの状態
- ・ライセンスのアクティベーション
- ・ライセンスのサポート期限
- ・バックアップの保存先容量

管理対象マシンへの一括導入

- ・エージェントのプッシュインストール
- ・更新パッチのプッシュインストール
- ・バックアップタスクのテンプレート作成
- ・バックアップタスクのテンプレートのデプロイ (配布)
- ・ライセンスのデプロイ (配布)

管理対象マシンのリモート操作

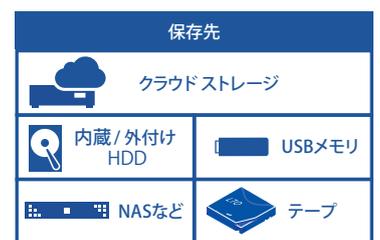
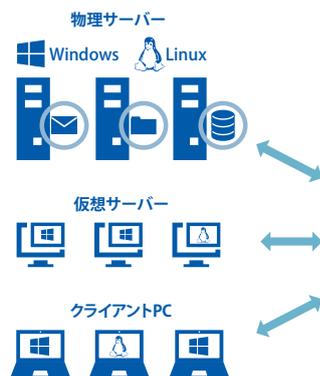
- ・エージェントへのリモートコンソール接続
- ・バックアップタスクの作成 / 編集 / 開始 / 停止
- ・RescueBootのリモート起動、リモート操作
- ・QuickRecoveryのリモート起動、リモート操作 **New!**
- ・管理対象マシンのシステム再起動

管理対象マシンの各種情報収集

- ・バックアップのタスクログ / アラート / イベントログ
- ・バックアップタスク設定
- ・管理対象マシンのディスク情報
- ・管理対象マシンのインベントリー情報 (CPU、メモリ、ネットワークなど)
- ・保存先ディスク情報



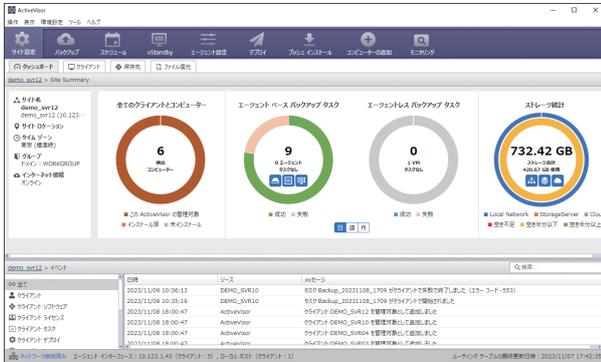
探索したコンピューター数、OS種別、管理下のコンピューター数、ActiveImage Protector™のエディション、タスクの失敗/成功などの情報を視覚的なグラフですぐに把握できます。



一括監視

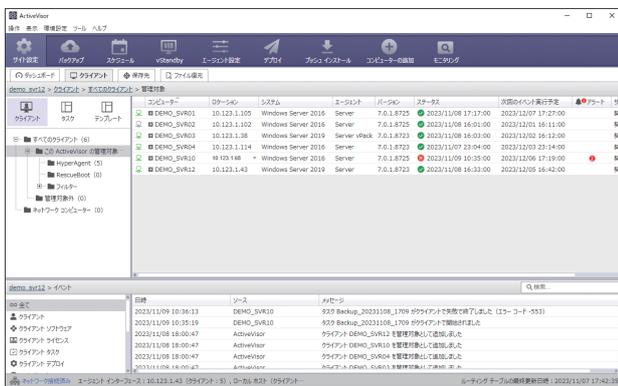
ダッシュボードからの監視

ActiveVisor™が検出したマシンの数、エージェントベース、エージェントレスのバックアップタスクの数、タスクの成功と失敗、バックアップ保存先のストレージの空き容量などを確認できます。



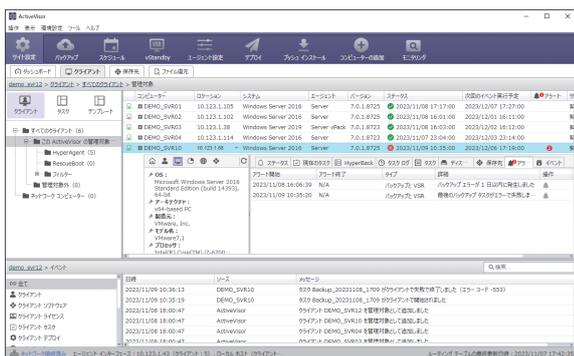
クライアント一覧からの監視

管理対象マシンのバックアップタスクの状況やスケジュール情報などを確認できます。複数のマシンの状態が一覧表示されますので、状況をすばやく把握することが可能です。また、管理対象マシンは、自由にグループ分けして管理できますので、実情の構成に合わせて設定できます。



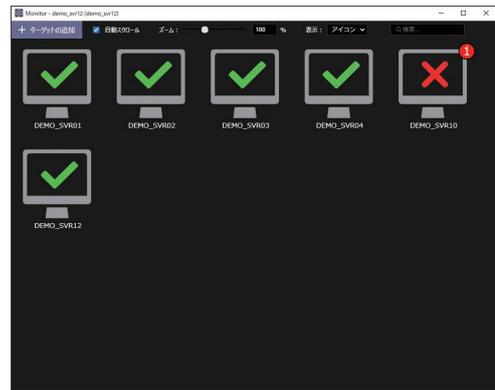
クライアント一覧から障害発生の確認

何らかの障害が発生した場合、どのマシンでどういった障害が発生したかを視覚的にわかりやすく表示しますので、即座に復旧作業に着手できます。



モニタ画面による監視

ActiveVisor™のコンソールとは独立したモニター画面から、監視したい管理対象マシンのバックアップタスクの状態などをアイコンで常時表示しておくことができます。正常時は緑色、失敗は赤色、未接続やアクティベーションされていない状況などの警告はオレンジ色で表示するなど、視覚的に状況をすばやく把握できます。



更に、モニター画面からは、管理対象マシンのバックアップタスクの状況などの詳細な情報を表示できます。



多彩な監視ポイント

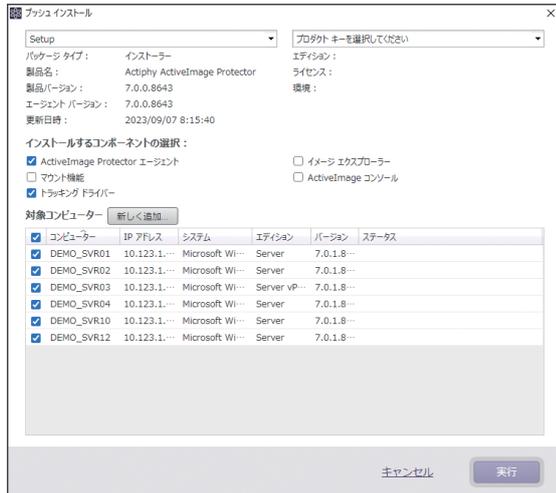
ActiveVisor™の監視は、バックアップタスクの状況監視に加え、管理対象マシンの状態、ライセンスやサポート期限、指定期間内のバックアップの状況など、多彩な監視ポイントの設定が可能です。



一括導入

エージェントのプッシュインストール

エージェントベースのActiveImage Protector™、およびActiveImage Protector™のエージェントレス機能(HyperAgent™)をリモートから、一括でプッシュインストールできます。ActiveImage Protector™ Virtualのプロダクトキーを使用して、ハイパーバイザー上の仮想マシンへプッシュインストールもできます。



ライセンスの情報表示 / 一括設定

管理対象マシンにインストールした、エージェントに適用されているライセンスやプロダクトキーの情報を表示できます。ActiveVisor™で管理対象となるのはサポートサービスが有効なクライアントですので、どのライセンスが有効期限内なのかを確認できます。また、各エージェントに対して、ライセンスの設定、アクティベーションが可能です。先に、試用版でテストを済ませてから、正規ライセンスに一括して更新することも可能です。



スケジュールテンプレートの作成

同一パターンのバックアップスケジュールのテンプレートを作成し、一括配布できます。個別に、管理対象マシン毎にスケジュール設定することも可能です。



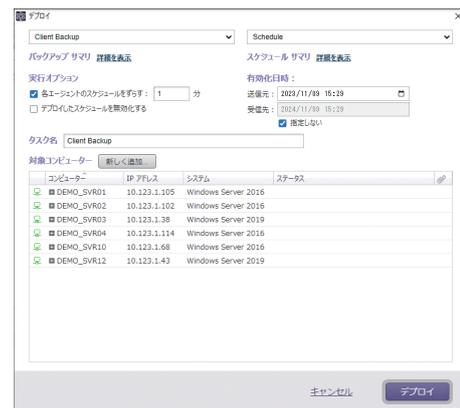
バックアップテンプレートの作成

同一パターンのバックアップ設定(バックアップ対象、保存先)のテンプレートを作成し、一括配布できます。個別に、管理対象マシン毎にバックアップ設定することも可能です。



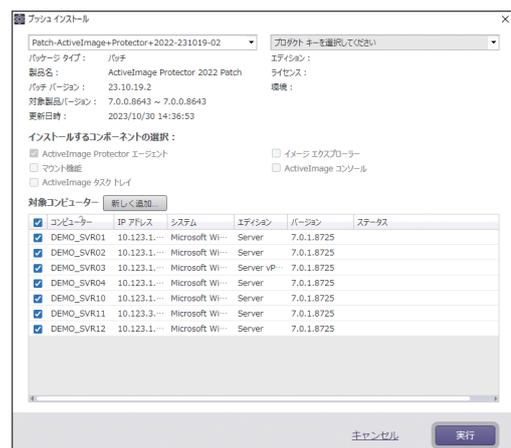
バックアップテンプレートのデプロイ (配布)

作成したテンプレートを、複数の管理対象マシンへ同時に配布できます。また、テンプレートを再利用して、後で同じ設定を再度配布することも可能です。これにより、今まで管理対象マシンに対して、一台一台おこなっていた設定作業が一度の操作で完了できますので、大幅な工数の削減になります。



更新パッチのプッシュインストール

通常のエージェントのプッシュインストールに加え、ActiveImage Protector™のパッチもプッシュインストールできますので、複数のActiveImage Protector™を更新する場合にも、作業時間を大幅に短縮できます。



リモート操作

エージェントへの直接操作

管理対象マシンに対して、リモートコンソール接続、各種バックアップタスクの作成/編集、RescueBoot、QuickRecoveryのリモート操作、サポート情報の取得など、多くの操作をおこなうことが可能です。

リモートコンソール接続

ActiveVisor™のリモートコンソールから、管理対象マシンのエージェントに接続して、バックアップタスクの作成や実行など、ローカルコンソールと同じ操作がおこなえます。



RescueBootのリモート操作

起動環境のメディアなしで復元環境を起動できるRescueBootを、ActiveVisor™からリモート起動して、起動環境の操作がおこなえます。ソフトウェア的な障害であれば、復旧が必要なマシンの前まで行かなくても、ActiveVisor™からシステムの復元をおこなうことが可能です。

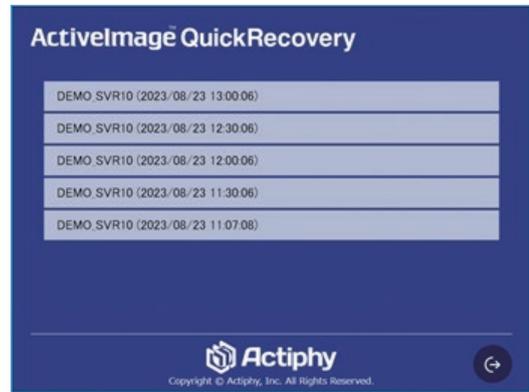


起動環境の起動後に、VNC Viewer接続設定

コンピューター	ロケーション	システム	エージェント
DEMO_SVR01	10.123.1.105	Windows PE	RescueBoot
DEMO_SVR1	全て選択	Server 2016	Server
DEMO_SVR2	VNC Viewerの起動	Server 2019	Server vPack
DEMO_SVR3	サポート情報の取得	Server 2016	Server
DEMO_SVR4	コマンドライン インターフェースの起動	Server 2016	Server
DEMO_SVR5	システム再起動	Server 2019	Server
	管理対象外に移動		

QuickRecoveryのリモート操作 New!

ActiveVisor™から、QuickRecoveryをリモート起動して、復元環境の操作をおこなうことができます。QuickRecoveryは、起動時に自動的に復元環境を作成し、起動環境のメディアを作成していなくても復元が可能です。また、復元環境の起動後に、復元ポイントを指定するだけで、簡単にすぐにシステムの復元がおこなえます。



QuickRecoveryの起動設定



Webブラウザ経由での管理が可能

ActiveVisor™は、Webブラウザでの管理も可能ですので、管理者はどこにいても作業が可能です。サポートしているブラウザは、Google Chrome、Microsoft Edge、Apple Safariです。

